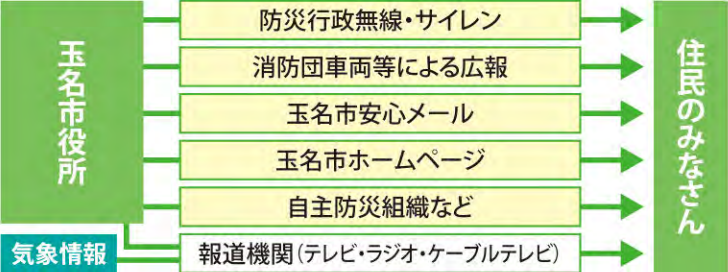


情報の伝達経路

市からの避難情報は下図のような経路で住民のみなさんに伝達されます。



いざというときの連絡先

名 称	電話番号
玉名市役所(代表)	75-1111
玉名市役所防災安全課	75-1130
玉名警察署	74-0110
有明広域行政事務組合消防本部玉名消防署	73-7117
玉名市防災無線電話応答サービス	73-3400

火事・救急 **119** 事件・事故 **110** 海上保安 **118**

テレビによる情報の入手例

1 **NHK総合テレビ**を表示し、リモコンの「**d(データ放送)**」ボタンを押してください。

2 リモコンの矢印で「**防災・生活情報**」に合わせ、「**決定**」ボタンを押してください。

3 玉名市(テレビに設定している郵便番号で判定)から情報が発信されていれば、「**避難情報(準備・勧告・指示)**」「**避難所開設情報**」の表示が赤くなるので、選択するとそれぞれの情報が表示されます。
※県内のどこの地域にも情報がない場合は、ボタンがグレーになります(選択できません)。

d ボタンの位置や形状は機種によって異なります。

インターネットによる情報の入手先

熊本県統合型防災情報システム

●熊本県の雨量や土砂災害危険度情報、気象情報をリアルタイムに提供します。
<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp/>

気象庁 気象警報・注意報

●全国の気象警報・注意報や台風・津波・竜巻などの各種災害情報を閲覧することができます。
<https://www.jma.go.jp/jp/warn/>

気象庁 レーダー・ナウキャスト

●全国の降雨状況や雷・竜巻の状況をリアルタイムで表示しています。
<https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

国土交通省 防災情報提供センター

●リアルタイムの雨量、各種災害情報、各地のハザードマップを閲覧することができます。
<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>

国土交通省 川の防災情報

●河川に設置された観測所の雨量・水位などを確認することができます。
<https://www.river.go.jp/>

玉名市安心メール

玉名市では、玉名市内外向けに火災に関する情報及び防災に関する緊急情報などを携帯電話・パソコンのメール機能を活用して配信するシステムの運用を行っています。

登録方法

- 携帯電話・パソコンからtma@123123.tvへ空メール送信すると折り返し登録フォームが返信されてきますので、返信の操作手順に従い登録をお願いします。
- 携帯電話の設定によっては、メールが拒否されますので、@123123.tvからのメールを受信できるよう事前設定(ドメイン指定など)してください。

▼登録用



※登録料は無料ですが、メールの受信にかかる受信料などは自己負担になります。

玉名市

総合防災マップ

保存版

玉名市総合防災マップには、市で想定される被害や、災害が起こったときに必要な情報を示しています。災害に対しては、自分の住む地域の危険性を知ることや、日ごろからの備えが重要です。あなた自身とあなたの大切なひとを守るために、この冊子をご活用ください。



玉名市マスコット「タマにゃん」

取り出しやすい場所に保管してください

P.1	●大雨時の情報 ●警戒レベルと避難行動	P.66	●地震が起きたときにとるべき行動
P.2	●河川の水位情報 ●雨の強さ・降り方と災害の危険性等		●緊急地震速報を見聞きしたら
P.3	●風水害への備え ●家庭でできる簡易水防	P.67・68	玉名市ハザードマップ〈地震〉
P.4	●避難のポイント ●水平避難と垂直避難	P.69～78	玉名市ハザードマップ〈津波〉
P.5	●土砂災害の種類 ●このような現象があったら要注意	P.79	●大津波警報・津波警報・注意報
P.6	●高潮発生のおそれ ●高潮の被害を受けやすい場所		●津波から身を守る行動パターン
	●高潮による主な浸水原因	P.80	●自主防災組織の役割と活動
P.7～54	玉名市ハザードマップ〈洪水・土砂災害〉		●地域ぐるみで取り組む防災・減災
P.55～64	玉名市ハザードマップ〈高潮〉		●要配慮者について
P.65	●屋内の安全対策 ●屋外の安全対策	P.81～82	施設一覧

玉名市が発令	警戒レベル	防災気象情報 (気象庁が発表)	とるべき行動
災害発生 情報	警戒 レベル 5	大雨特別警戒	すでに災害が発生している状況です 命を守るための最善の行動をとりましょう。 また、この段階では安全な避難が難しい場合があるため、レベル3・レベル4の段階 で安全に避難を終えましょう。
避難指示 (緊急) 避難勧告	警戒 レベル 4	土砂災害 警戒情報	いますぐ安全な場所へ全員避難 速やかに避難場所へ避難しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内 のより安全な場所に避難しましょう。
避難準備・ 高齢者等 避難開始	警戒 レベル 3	大雨警戒・ 洪水警戒	高齢者や要介護者等は避難 高齢者、障がいのある方等、避難に時間のかかる方とその支援者は避難を開始しま しょう。 その他の方は、避難の準備を整えましょう。
	警戒 レベル 2	大雨注意報・ 洪水注意報等	ハザードマップなどで避難行動を確認しましょう 災害の危険性のある区域、避難場所、避難経路、避難のタイミングを確認してください。
	警戒 レベル 1	早期注意報	最新の防災気象情報などを確認しましょう 災害への心構えを高めてください。



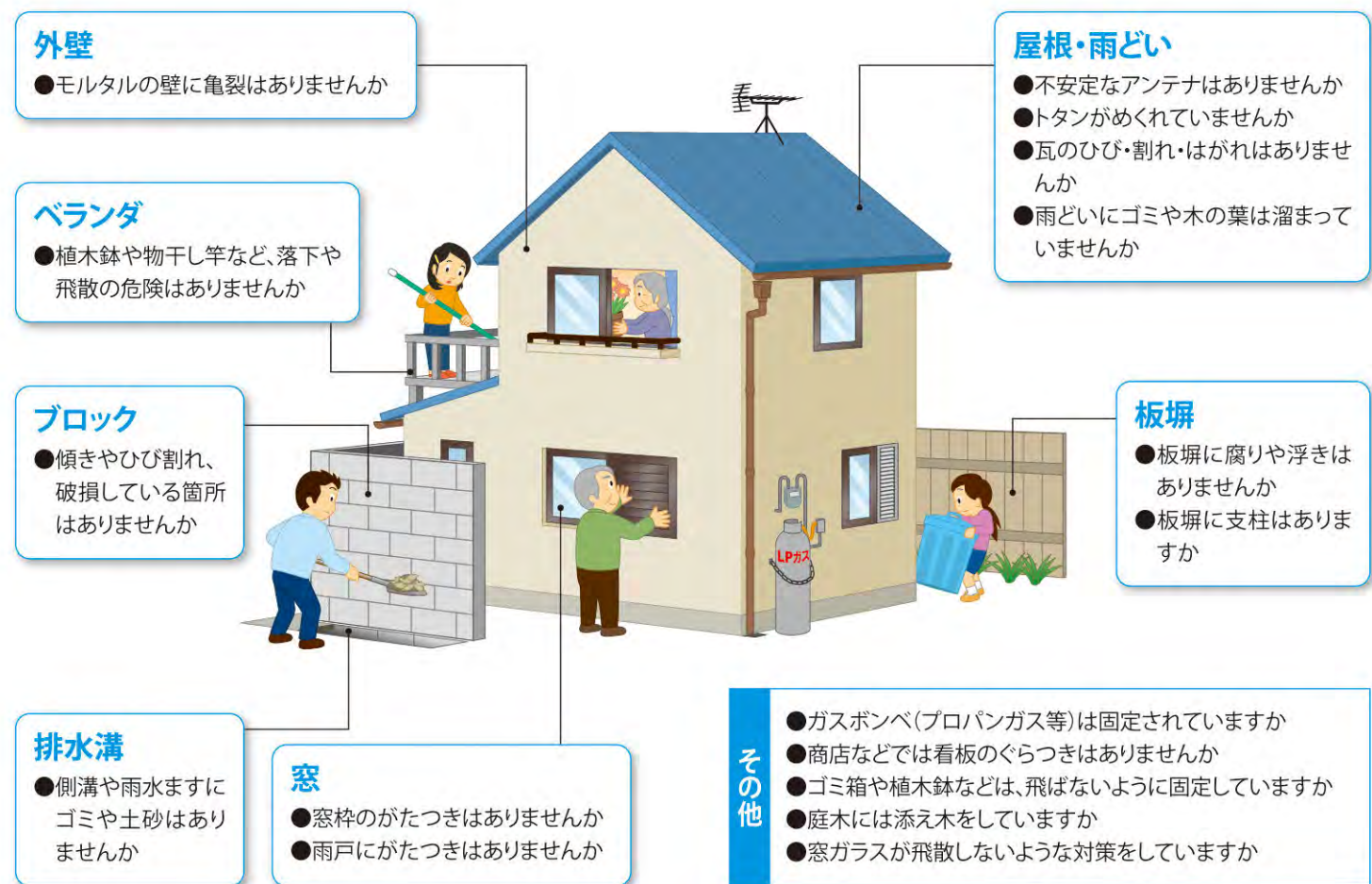
出典：『熊本県統合型防災情報システム』(<http://www.bousai.pref.kumamoto.jp/>)、『川の防災情報』(<https://www.river.go.jp/>)

	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
	10～20mm未満	20～30mm未満	30～50mm未満	50～80mm未満	80mm以上
1時間雨量と 予 報 用 語					
人の受ける イ メ ージ	● ザーザーと降る。	● どしゃ降り。	● バケツをひっくり返したように降る。	● 滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)	● 息苦しくなるような 圧迫感がある。 ● 恐怖を感じる。
人への影響と 屋外の様子	● 地面からののはね返りで足もとがぬれる。	● 傘をさしていてもぬれる。 ● 車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	● 道路が川のようになる。	● 傘はまったく役に立たなくなる。 ● 水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	
災害の危険性	● この程度の雨でも、長く続くときは注意が必要。	● 側溝や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。 ● 小規模のがけ崩れのおそれがある。	● 山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難が必要。	● 土石流が起こりやすい。 ● 多くの災害が発生する。	● 雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、厳重な警戒が必要。

長時間の雨を降らせるものとして、線状降水帯があります。線状降水帯とは、激しい雨を降らせる積乱雲が連続して発生し、線状に並ぶものをいいます。数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞するため、激しい雨が長時間降り続けます。

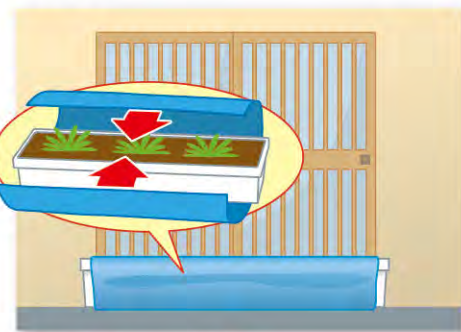
風水害への備え

台風や大雨などによる被害を最小限にとどめるために、日頃から家屋やその周囲の点検・修理・補強を行い、十分な風水害対策を講じておきましょう。



家庭でできる簡易水防

浸水が浅い場合には、土のう(無い場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでも可)などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておく、より効果的です。



簡易水防工法例①
プランター+ビニールシート

土を入れたプランターをビニールシートで巻き込んだものを使用し、浸水を防ぎます。



簡易水防工法例②
簡易水のう+止水板

簡易水のうを作り、長めの板などと組み合わせて出入りに設置し、浸水を防ぎます。

「簡易水のう」の作り方



家庭で使用しているごみ袋(40リットル程度の容量)を二重にして、中に半分程度の水を入れて閉めます。

避難のポイント

いざという時のために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。



状況により、すばやく避難しましょう

避難情報などが発表されていなくても、状況などから判断し、自主的に避難しましょう。



浸水時に長靴は厳禁

避難には運動靴が最適です。長靴は水が入ると歩けなくなります。また、素足での避難は大変危険です。



防災メモを持とう

高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。



持ち出し品は最小限に

非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。



浸水時、自動車での避難は危険

普通自動車は約30cmの浸水で走行困難になります。浸水時、自動車での避難は危険です。



家族には連絡メモを残そう

外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくとい良いでしょう。



集団で助け合おう

単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。



安全なルートで避難

避難場所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣の高い建物や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。また、土砂災害の危険性がある地区では、屋内でも山と反対側に避難を行うことも必要です。



危険な避難



**避難場所への
早めの避難(水平避難)**



**屋外へ避難できない場合
高所への避難(垂直避難)**

浸水後の避難 やむを得ず移動する場合は…



歩ける深さ

浸水時に歩ける深さは膝くらいまで。腰まで浸かって歩くと体力を消耗します。また、水深20cm位でも、流れが速い場合は危険を伴うことがあるので注意が必要です。



足もとに注意

浸水により足もとが見えにくくなることで、道路と側溝や水路等の区別がつかなくなります。長い棒などで深い場所がないか安全を確認しながら歩きましょう。

土砂災害の種類

土砂災害は、すさまじい破壊力を持つ土砂が、一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまう恐ろしい災害です。土砂災害から身を守るために、ハザードマップで自分が住んでいる場所の周辺で土砂災害発生可能性がある場所を確認しましょう。



●土砂災害警戒区域

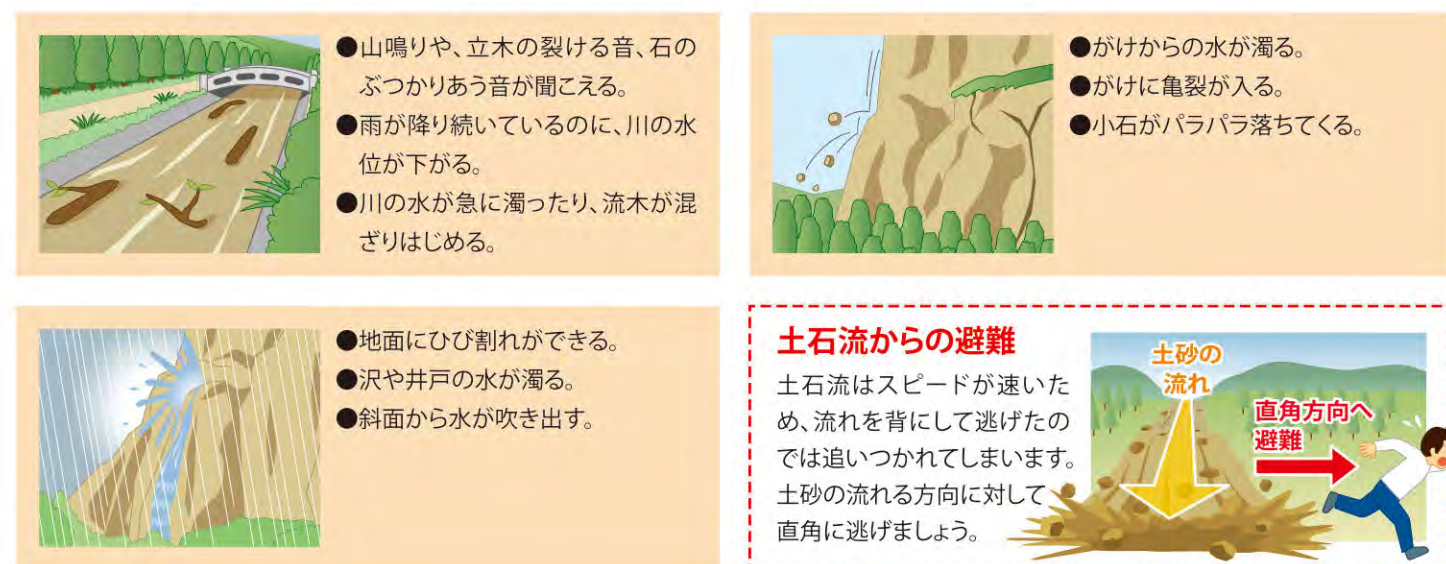
土砂災害が発生するおそれがあり、発生した場合、住民に危害が生じるおそれがある区域。

●土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域のうち、土砂災害が発生した場合に建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域。

このような現象があったら要注意

突発的に発生する土砂災害は、その発生を正確に予測することは困難ですが、いくつかの特徴的な前兆現象があります。以下のような前兆現象に気づいたら、少しでも安全な場所へ早めに避難してください。



高潮発生のしくみ

高潮とは台風や発達した低気圧によって、海岸付近で海面が異常に高くなる現象です。高潮発生の主な要因としては、以下の2つがあります。



台風や低気圧の中心気圧は周辺部より低いため、周辺部の大気が海面を押さえつけ、また、中心付近の大気が海面を吸い上げるように作用することにより海面が上昇します。

台風などの強風が沖から海岸に向かって長時間にわたり吹き続けると、海水が海岸に吹き寄せられて海岸付近の海面が異常に上昇します。

大潮期の満潮と高潮のピークが重なると、海面が上昇しやすくなり危険です。また、大雨により河川の水位が上昇している場合、河口付近ではさらに水位が高くなるおそれがあります。

高潮の被害を受けやすい場所

高潮による海面上昇は、地形や海岸形状によって大きく異なります。次のような場所では高潮災害に対する警戒が特に必要です。



高潮による主な浸水原因

- ① 高波による堤防・護岸からの越波
- ② 高潮による堤防・護岸からの越流
- ③ 洪水による河川堤防からの越流

